

道徳教育方法研究

第 11 号

2005

I. 研究論文

1. 「道徳の時間」についての大学生の記憶とイメージ

植田 和也

2. 道徳教育に関する大学生の意識構造
— 初等中等教育との大学の教員養成との接続の観点から —

兼松 儀郎

3. 教員養成段階における道徳授業実践研究の意義(2)
— 「道徳教育充実のための教員養成学部等との連携研究事業」の取り組みを中心 —

堺 正之 / 小林 万里子

4. 「コミュニケーション的行為の理論」による「モラルジレンマ」授業の再構築に関する実践的研究

杉中 康平

5. 児童の道徳的発達における「道徳」判断と「社会的慣習」判断との相互関係
— 「道徳」判断への「社会的慣習」判断の影響を中心 —

鈴木 由美子

6. コミュニケーションを通じた徳性の育成

田代 勢津子

II. 実践研究報告

1. 「発問と応答」の活動内容と活動目標に関する一考察

品川 利枝

III. シンポジウム 良い道徳資料とは何か

1. シンポジストの発表資料

(1) 良い道德資料とは何か

小川 裕之

(2) 良い道德資料とは何か

日下 哲也

(3) ねらいを達成すべく良い道德資料とは

—「心に響く感動資料の活用」の側面から—

水野 生康

2. 司会者のまとめ

(1) シンポジウムのまとめ

服部 敬一

IV. 会務報告

V. 日本道德教育方法学会会則

VI. 『道德教育方法研究』投稿規定

VII. 欧文サマリー

編集後記